

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年5月15日

事業所名 音楽療法センター コスモス・キッズ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7		個別療育だが、十分なスペースを確保している	
	2	職員の配置数は適切である	7		個別療育だが、4人体制を取るようになっている	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	室内は全てバリアフリー化している。トイレも広く複数で介助が出来るようになってきている。	まだまだ改善するべきところがあると認識している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7		楽器など手で触れるものは常時消毒して、空気清浄器も配置している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5	1	職員ミーティングで常に意識するようになっている。	非常勤職員が多く、スタッフ全員で参画できていない。共有できるように努力する。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		保護者とのコミュニケーションを図るよう努力している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7		季刊通信を発行して随時お知らせするようになっている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	2	常に外部に向けてオープンな姿勢をとっている。	法人の監査やコンサル、外部の講師による相談や指導を受ける機会がある。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		職員間のコミュニケーションを大事にしている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		保護者、児童とのコミュニケーションを大事にしている。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	独自の項目を入れて支援に繋がるようになっている。	職員に周知を図っていきたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6		発達支援センターや他の事業所と連携をとるようにしている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		支援計画を職員全員が把握するようになっている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		職員同士のコミュニケーション取っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		職員同士のコミュニケーション取っている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		年齢や状況に応じて取り入れている。	
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		毎日の記録をつけて共有している		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	支援の終了時にその都度話合うようにしている	その日の全ての支援終了後に振り返りの時間を全員でもつようにする。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		支援記録を複数の職員で取るようにしている	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		毎月の支援記録を振り返りに使っている	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		シフトをやり繰りしている	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	1	常に情報を入手できるようにしている	関係機関からの要請があれば積極的に参加している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		3		保護者や相談支援員からの情報を頼りにしている。(医療的ケアが必要な子どもの支援はしていない)
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	2		保護者や相談支援員からの情報を頼りにしている。(医療的ケアが必要な子どもの支援はしていない)
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	2		受け入れに理解が無く直接連絡をとることが難しい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	3		受け入れに理解が無く直接連絡をとることが難しい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	6		シフトをやり繰りして出来る限り参加できるようにしている	市の事業所連絡会に参加したり、各種の研修会の参加を促していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	2	自主イベントの開催	障がいの有無にかかわらず参加が可能な自主企画イベントを開催している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	3		参加していない。機会があれば積極的に参加したい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		保護者とのコミュニケーションを図るよう努力している。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	1		ママパパクラブを不定期に開催し保護者同士の交流を図ったり、研修の開催など行っていきたい。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		保護者が気軽に聞けるような雰囲気心を掛けている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		毎回の通所時に対等者を決めて対応している	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7		保護者交流の機会を作っている	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		常にコミュニケーションをとれる環境にしている	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		季刊通信を発行している	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		鍵のかかる書庫にしている	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		保護者同伴で通所して貰っている	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	1		法人代表者が対応している。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6			半年に1回、全員で共有できるよう努力している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			半年に1回、全員で共有できるよう努力している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		保護者から聞き取りを重視している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				食事の提供は行っていない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		事例を職員で共有するようにしている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1		研修会の参加を積極的に促している
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	3		保護者同伴通所で同室しない場合でもカメラで可視化している。状況に応じて保護者の理解を得た上で対応しているので支援計画には記載していない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。